

翻案狂言による西欧文学受容

菊地 善太

日本大学大学院総合社会情報研究科

A Study of the Acceptance of Western Literature in Japan through Kyogen Adaptations

KIKUCHI Zenta

Nihon University, Graduate School of Social and Cultural Studies

In this paper, an up-to-date list of Kyogen adaptations of Western literature from the Meiji era (1968–1912) to recent times is presented. Five points are noted and examined as important factors that contributed to the flourishing of Kyogen adaptations. The first is the creation of Kyogen adaptations by Iwaya Sazanami from the 1890s to the 1920s. The second is the stage performance of the Kyogen *Koromo-Daimyo* (1906), an adaptation of Hans Christian Andersen's story, "The Emperor's New Clothes." The third is the creation of Kyogen adaptations by Tadasu Iizawa in the 1950s and 1960s. The fourth is the boom in Kyogen adaptations of Shakespeare since the 1990s. Finally, the fifth is the stage performances of the Okura School of Kyogen by the Shigeyama Family in recent years.

1.はじめに

日本における西欧文学の受容が急速に進んだのは、明治維新になって政府が欧化政策を進めてからであった。翻訳、翻案、演劇化と受容の形は色々あるが、本稿は特に西欧文学由来の新作狂言（翻案狂言と呼ぶ）の創作上演による受容に着目し、明治期以降の翻案狂言による創作上演の記録を調べ、考察する。

翻案狂言について、作品や作者演者に偏らず、明治期まで遡り、総括的に論じている単独の先行研究は見当たらない。但し、能楽辞典などの「新作狂言一覧」から翻案狂言を抽出することは可能であり、個別作家・演者・作品の資料から、新作の追加が可能であろう。第2節は西欧文学由来の翻案狂言上演の作品一覧を抽出し、第3節でそれを考察する。

2.翻案狂言上演一覧（明治期は創作のみを含む）

2.1 項から 2.5 項では、既存の新作狂言一覧表や翻案劇上演記録を取りあげ、それらから翻案狂言の創作上演記録を抜き出した。そして 2.6 項で様々な個別資料を参照し、訂正・補足と追加を行った。なお、

曲名や引用等で、旧字体の文字は原則として新字体に置き換えて引用した。

2.1 「新作狂言一覧」古川久・小林責（編）『狂言辞典（資料編）』東京堂出版、1985

古川久と小林責が夥しい数の先行資料を確認し編纂した狂言の辞典である。pp.357-72 に「新作狂言一覧」が収録され、昭和 54 年（1979）2 月までの記録がある。凡例に、

本表作成については、早稲田大学狂言研究会編「新作狂言一覧表」（『七つ子』九号所収）、松本雍編「明治以後新作狂言一覧」（『能楽全書』（総合新訂版）（5）所収）、同追補（『能楽全書』（総合新訂版）（6）所収）、三宅藤九郎『藤九郎新作狂言集』、昭和女子大学近代文学研究会『近代文学研究叢書』（35）（巖谷小波の項）その他を参照した

とあり、これらを統合した資料と分かる。翻案狂言を抽出したものを下表に示す。

但し、通し番号を付け、曲名、作者、作上演年月、備考以外は割愛した。一部のふりがなも割愛した。年号は和暦。狂言師によらない上演や狂言風芝居も取りあげた。作上演年月は創作発表年より初演年月を優先した。また、上演された曲名には(演)の記号を附した。

表：翻案狂言一覧（西欧文学による）

番号	曲名 (作品名)	作者	作 上演 年月	備考
1	幽霊	巖谷 小波	明 25 9.11	ゲレルト作の翻 案 ¹
2	魔法弟子	巖谷 小波	明 25 9.21	ゲーテ「魔法使い の弟子」による
3	えし 画師	巖谷 小波	明 25 10.1	ゲレルト作の翻 案
4	ころも 衣 大名(演)	杉谷 代水	明 39 2	アンデルセン「裸 の王様」の翻案 ²
5	らくしゅ 落首	漕浦 漁人	明 45 6	Johann P. Hebel “Die Schmadschrift”に よる
6	タンタジール の死	大王 無人	大 5 5	メーテルリンク 「タンタジール の死」による。大 王無人は丸岡桂 の偽名
7	すす がわ 濯ぎ川(演)	飯沢 匡	昭 27 2	フランス中世の ファルス「洗濯 桶」による。狂言 初演は昭 28.7
8	にんにょうぼう 二人 女房 (演)	片山 博通	昭 27 6	シェークスピア 「ウィンザーの 陽気な女房たち」 による

¹ 新作狂言「幽霊」「魔法弟子」「画師」の三作品については、植田敏郎「三つの狂言」『巖谷小波とドイツ文学』大日本図書、1991 に詳しい。

² 雑誌『能楽』と『早稲田文学』の明治 39 年（1906）2、3 月号に、案内、台本・劇評が載った。

9	はわき 箒(演)	飯沢 匡	昭 32 5	ゲーテ「魔法使い の弟子」による。 狂言風初演は昭 46.10
10	おし ひとこえ 唾の一声(演)	飯沢 匡	昭 33 12	アヌイ「唾のユミ ユリュス」による
11	いそ ほねずみ 伊曾保 鼠 (演)	飯沢 匡	昭 35 11	希臘・アイソポ スの寓話による
12	はだか 裸 大名(演)	飯沢 匡	昭 38 10	アンデルセン「裸 の王様」による
13	ぢゃぢゃ馬馴 らし(演)	三宅 藤九 郎・九 世	昭 51 4	シェークスピア の翻案による。執 筆は昭 27.7
14	みそ 密か鬼(演)	飯沢 匡	昭 53 1	セルヴァンテス 「サラマンカの 洞穴」による

2.2 「新作狂言一覧」小林貢・西哲生・羽田昶（編） 『能楽大辞典』筑摩書房、2012

この「新作狂言一覧」pp.1011-18 は上演作初演記録のみが載っており、平成 17 年（2005）11 月までの記録がある。前項同様に翻案狂言を抽出し、前項の表に下記を加える。

15	ほらざむらい 法螺 侍(演)	高橋 康也	平 3 7	シェークスピア 「ウィンザーの 陽気な女房たち」 ほかによる
16	赤頭巾(演)	野村 万之 丞／ 小田 幸子	平 11 3	グリム童話「赤頭 巾」による
17	白雪姫(演)	野村 万之 丞／ 小田 幸子	平 11 3	グリム童話「白雪 姫」による

18	まちがいの狂言(演)	高橋 康也	平 13 4	シェークスピア 「間違いの喜劇」 による
19	とらどとう お虎怒濤(演)	帆足 正規	平 15 12	オペラ「トゥーラ ンドット」による

2.3 松本雍「資料 新作狂言年表」『楽劇学』第 11 号、楽劇学会、2004.3

楽劇学会第 11 回大会公開講演会「狂言の新作と可能性」の記録として、同学会誌『楽劇学』第 11 号に収録された資料の一つが、この「資料 新作狂言年表」pp.69-80 である。平成 15 年（2003）10 月までの新作が載っている。翻案への言及が殆どなかったが、翻案と読み取れた次の 4 件を追加する。

20	田舎親父ソクラテスを殴打したること(演)	中島 貞夫	昭 53 4	ギリシャ喜劇 「雲」より
21	じゃじゃ馬ならし ³ (演)	和泉 元秀	平 3	英国シェイクスピアフェア
22	真夏の夜の夢(演)	和泉 元秀	平 3 11	英国上演
23	サロメ(演)		平 14 3	和泉元彌 英国王立劇場アカデミー

2.4 滝静寿・佐々木隆（編）「狂言によるシェイクスピア劇上演年表」（朗読を含む）滝静寿（編）『シェイクスピアと狂言』新樹社、1992

荒井良雄・佐々木隆ら駒澤大学の研究グループによる研究報告資料である。

資料編「狂言によるシェイクスピア劇上演年表」（朗読を含む）pp.116-18 に昭和 51 年（1976）4 月から平成 3 年（1991）10 月までの上演記録が載っている。

これより英語朗読上演や英語小舞、英語狂言を含む次の 9 件の翻案狂言を追加する。

24	<i>The Taming of the Shrew</i> (演)	荒井 良雄	平 2 12	英語朗読 和泉元秀指導
25	<i>Blindman's Bluff</i> (演)	ダン・ケニー	平 3 6	英語狂言、「リア王」より
26	<i>A Midsummer Night's Dream</i> (演)	ダン・ケニー	平 3 6	英語狂言
27	十二夜（黄色い恋）(演)	和泉 元秀	平 3 8	国立能楽堂
28	<i>A Love Letter</i> (演)	荒井 良雄	平 3 8	英語狂言、「十二夜」より、和泉宗家
29	<i>The Lovesick in Yellow</i> (演)	荒井 良雄	平 3 8	英語狂言、「十二夜」より、和泉宗家
30	ソネット第 18 番(演)	荒井 良雄	平 3 8	英語新作小舞
31	ソネット第 29 番(演)	荒井 良雄	平 3 8	英語新作小舞
32	マクベス(演)	荒井 良雄	平 3 8	英語新作小舞

ここで 32 番のマクベス小舞は、荒井良雄の論文⁴から上演を確認できたので補足した。

2.5 「上演史（明治・大正・昭和・平成）」（翻訳・上演・映像年表.pdf）佐々木隆（編）『CD-ROM 版 日本シェイクスピア総覧』エルピス、2005

佐々木隆はシェイクスピア書誌研究の第一人者で、『日本シェイクスピア総覧』1、2 巻、CD-ROM 版（上記）のほか、『シェイクスピア研究資料集成』（全 30 巻＋別巻 2）1997-98 も編纂している。上記上演史のファイルは、明治初期から平成 14 年（2002）末までの記録が再演も含めて載っている。狂言上演は「狂言」と記載があり調べたが、新規の翻案狂言は発見できなかった⁵。

⁴ 荒井良雄「英語狂言の創造をめぐる」『シェイクスピアと狂言』、pp.102-114。

⁵ 「狂言」で調べると、「キング・リア（ダンス狂言）」（河内連太台本、上田遙演出・振付、平 13.4）の記録

³ 前々項 13 番「ぢゃぢゃ馬馴らし」に和泉元秀が手を加えた作り直した。

2.6 訂正補足、新作追加

前項まで、既存の新作狂言一覧等より西欧文学由来の翻案狂言の創作上演記録を抜き出した。本項ではその他資料も参照し、訂正補足、追加をする。

以下に 32 番までの訂正補足を示す。変更箇所を下線を附し、根拠は脚注に記した。

(訂正補足一覧)

13	ぢゃぢゃ馬馴らし (演)	三宅藤九郎・九世	昭 51 6 ⁶	シェークスピアの翻案による。執筆は昭 27.7
15	ほらざむらい 法螺 侍 (演)	高橋康也	平 3 5 ⁷	シェークスピア「ウィンザーの陽気な女房たち」ほかによる
26	A Midsummer Night's <i>Kyogen</i> ⁸ (演)	ダン・ケニー	平 3 6	英語狂言
22	夏の夜の夢 ⁹ (演)	和泉元秀	平 3 8 ¹⁰	国立能楽堂
23	サロメ (演)	和泉元彌 ¹¹	平 13 秋 ¹²	英国ジャパンプ エスティバル 2001 ¹³

が見つかったが、ダンス狂言は能楽の狂言とはかけ離れており無視した。ダンス狂言については、上田遙演出ダンス狂言「ハムレット」の記録があるホームページを訪問し (2014.05.21)、URL:

<http://dance-square.sakura.ne.jp/member/hush1.html>、舞台写真を見て狂言とは別物であると判断した。

⁶ 菊地善太「シェイクスピア劇と狂言の出会い」『日本大学大学院総合社会情報研究科紀要』No.13、2012.11 参照。

⁷ 高橋康也『まちがいの狂言』白水社、2003、p.169 上演日程から。

⁸ 翻訳台本の載った『悲劇喜劇』1991.6 の記事に「真夏の夜の狂言」と題名があるほか、*The Japan Times*, June.22,1991 記事でも確認できた。

⁹ 2.4 項の上演年表資料より。

¹⁰ 同上。

¹¹ 和泉元彌「残された宿題、新作に挑む」『舞い、謡い、演じ。』東急エージェンシー、2000 より。

¹² 同上。

¹³ 同上。

次に、新たな追加作品を記す。明治期では、巖谷小波 (いわやさざなみ、1870-1933、明 3-昭 8) の翻案狂言が追加される。

(巖谷小波・作)

33	うまぬすびと 馬 盗 人	巖谷小波	明 39 1	『千夜一夜物語』より ¹⁴ 。歌舞伎の原作になった ¹⁵
34	したぎだいみょう 下衣 大名	巖谷小波	明 40 6	アンデルセン「裸の王様」より ¹⁶

小波は西欧翻案以外の新作狂言も多数発表しており、お伽作家としてだけでなく、新作狂言創作でも、先駆けであり第一人者であった。その後第二次大戦後まで、追加作の記録は見つからない。

戦後では、まず飯沢匡 (いいざわただす、1909-94、明 42-平 6) の翻案狂言を追加する。飯沢は、狂言ルネッサンスのブームと時を同じくして、久しく絶えていた翻案狂言の創作を精力的に行った。

(飯沢匡・作)

35	みねい ぎょうじゃ 峯入り 行者 (演)	飯沢匡	昭 49 10	英国人の書いたラジオドラマより ¹⁷
----	----------------------	-----	------------	-------------------------------

次に、昭和 56 年 (1981) に、帆足正規 (ほあしまさのり、1931 (昭 6) -) が落語「死神」を翻案し

¹⁴ 雑誌『中学世界』第 9 巻第 1 号博文館、1906.1 で「馬盗人」の原作を見たところ、冒頭に「これはアラビヤンナイトの中にある、至つて短い断片である。今それを狂言体に敷衍して、学校劇の一種にもと試みた」とあった。

¹⁵ 歌舞伎パンフレット『七月大歌舞伎・新橋演舞場』松竹、2010.7 に巖谷小波作、巖谷慎一脚色とあり、P.45 の「解説と見どころ」に「原作者は、お伽断の創始者で俳人でもある巖谷小波で、明治三十年頃に「お伽狂言」として作られ、自らも演じていたと言われています」とあるので、記録は見つかっていないが、公式な場でなくとも実際に演じられた可能性がある。

¹⁶ 筆者の仮説であるが、前年 2 月に文藝協会発会式の筆者の仮説だが、文藝協会発会式の余興で新作狂言「衣大名」を観た小波が、触発されて創作したと考えられる。大名＝王様が無労無苦の者の下着を欲したところ、その者が下着を身に着けず一枚着で断念する話で、下着を着ない大名を想像して原作が想起させる。

¹⁷ 飯沢匡『飯沢匡新狂言集』平凡社、1984 の「あとがき」より。

た翻案狂言を創作し、茂山千之丞らにより上演された。落語「死神」はイタリア民話から翻案したと言われている¹⁸。

(帆足正規・作)

36	死神 (演)	帆足 正規	昭 56 4	同名落語原作 茂山千之丞演出 ¹⁹
----	--------	----------	-----------	---------------------------------

この帆足の狂言「死神」を題材として、ダン・ケニー (1936 (昭 11) -) も昭和 63 年 (1988) に新作狂言 *A Slight Flaw* (邦題「欠陥死神」) を創作し、5 月 20 日に試演した。

(ダン・ケニー・作)

37	<i>A Slight Flaw</i> (演)	ダン ・ケニー	昭 63 5	英語狂言 ²⁰
----	--------------------------	------------	-----------	--------------------

これはケニーによる翻案狂言創作の处女作で、その後 25 番、26 番のシェイクスピア翻案狂言を創作上演した。もっとも、ダン・ケニー英語狂言プレイヤーズは、既に昭和 57 年 (1982) 5 月に、イエイツの翻案狂言を演じていた。

38	猫と月 (演)	不明	昭 57 5	イエイツ「猫と月」より ²¹
----	---------	----	-----------	---------------------------

英語狂言では、上田 (宗片) 邦義 (1934 (昭 9) -) の英語シェイクスピア能における間狂言²²も記している。

(上田 (宗片) 邦義・作)

39	英語能「ハムレット」 間狂言 (演)	上田 邦義	昭 57 8	英語間狂言 ²³
----	-----------------------	----------	-----------	---------------------

¹⁸ 茂山家の公演案内 (2014.5.7 訪問) URL: <http://www.ryutopia.or.jp/schedule/14/0705n.html> の演目紹介に、「円朝がイタリア民話から翻案した落語を、能楽笛方の帆足正規氏が狂言化した作品」とある。

¹⁹ 初演年は、帆足正規「狂言の広がり—新作狂言と私」『上方芸能 No.135』2002.2、pp.18-20 より。

²⁰ ダン・ケニー「狂言・欠陥死神」『悲劇喜劇』1990.2 及び Don Kenny, *The Kyogen Book*, The Japan Times, 1989 より。いずれも台本と解説がある。

²¹ 『能楽タイムズ』362 号、能楽書林、1982.5 に公演案内が、同 364 号 (1982.7) に劇評がある。

²² 菊地善太「シェイクスピア劇と英語狂言」『日本大学大学院総合社会情報研究科紀要』No.14, 2013.7 参照。

²³ 同上。

40	英語能「リア王」間狂言 (演)	上田 邦義	平 5 5	英語間狂言 ²⁴
----	-----------------	----------	----------	---------------------

シェイクスピア翻案狂言については、更に追加がある。8 番、片山博通 (1907-63、明 40-昭 38) の「二人女房」が単発の上演で終わったのに対し、13 番あるいは 21 番の「ぢやぢや馬馴らし／じゃじゃ馬ならし」は和泉元秀 (1937-95、昭 12-平 7) により何度も繰り返し上演された。元秀は翻案新作の創作上演に積極的で、前出に加えて下記 4 作を創作した。

(和泉元秀・作)

41	スカパンの悪 だくみ (演)	和泉 元秀	平 5 5	モリエール原作 パリ日本文化祭 ²⁵
42	いやいやながら 医者にされ (演)	和泉 元秀	平 5 5	モリエール原作 パリ日本文化祭 ²⁶
43	狂言オペラ・ 夏の夜の夢 (演)	和泉 元秀	平 7 2	上野・奏楽堂 ²⁷
44	ハムレット (演)	和泉 元秀	平 7 8	和泉元彌主演 デンマーク ²⁸

15 番と 18 番、高橋康也 (1932-2002、昭 7-平 14) 作「法螺侍」「まちがいの狂言」を演じた野村万作・萬斎らも両作を幾度も上演した。これに続く作品として、河合祥一郎作、野村萬斎主演の「国盗人」と「マクベス」があるが、いずれも狂言というよりは芝居であり²⁹、本稿では取りあげない。

シェイクスピア翻案では、関根勝 (せきねまさる、1945 (昭 20) -) による創作上演も記す必要があらう。平成 16-22 年 (2004-10) にかけて、イタリア

²⁴ 同上。

²⁵ 荒井良雄氏からいただいた「和泉元秀・芸歴」資料による。

²⁶ 同上。

²⁷ 同上。

²⁸ 和泉元彌「父の遺作『ハムレット』『舞い、謡い、演じ。』、pp.120-123 より。

²⁹ 「国盗人」については、NHK BS で録画 (再放送) を観た (2010.1)。「マクベス」は昨年 (2013.3) 劇場で観た。

人学生による上演、オペラ歌手と大蔵流狂言師の協演など、様々な試みに取り組んだ。シェイクスピア翻案作が多数あり、近年ではモリエール翻案も手掛けた。以下 15 作を追加する。

(関根勝・作)

45	若旦那の博打 (演)	関根 勝	平 13	C.ゴルドーニの 「珈琲店」より。 早稲田学生 ³⁰
46	堺の商人 (演)	関根 勝	平 14	「ベニスの商人」 より ³¹ 。
47	双子姉妹 (演)	関根 勝	平 15	「十二夜」より ³² 。
48	酔っ払いの仕 返し (演)	関根 勝	平 16 3	「十二夜」より。 イタリア人学生 ³³ 。
49	恋の骨折り (演)	関根 勝	平 17 4	「十二夜」、コン メディア・デッラ ルテほか。イタリ ア人学生 ³⁴ 。
50	恋の濡れ衣 (演)	関根 勝	平 18 12	コンメディア・デ ッラルテ <i>La Innocentia Rinvenuta</i> より。 早稲田学生 ³⁵ 。
51	いたち (演)	関根 勝	平 19 6	Angelo Beolco の <i>Bilora</i> より。 イタリア人と狂 言師 ³⁶ 。
52	狂言&オペラ ハムレット (演)	関根 勝	平 20 6	Theatre Project Si 第 1 弾。善竹忠亮、 土田聡子ほか ³⁷ 。

53	狂言&オペラ リア王 (演)	関根 勝	平 20 11	Theatre Project Si 第 2 弾。善竹忠重、 小山陽次郎ほか ³⁸ 。
54	狂言&オペラ オセロ (演)	関根 勝	平 21 6	Theatre Project Si 第 3 弾。善竹富太 郎、土田聡子ほか ³⁹ 。
55	狂言&オペラ フォルスタッ フ 法螺吹衛 門 (演)	関根 勝	平 21 10	Theatre Project Si 第 4 弾。善竹十郎、 土田聡子ほか ⁴⁰ 。
56	狂言&オペラ ロミオ&ジュ リエット (演)	関根 勝	平 22 5	Theatre Project Si 第 5 弾。善竹忠亮、 北澤幸ほか ⁴¹ 。
57	狂言&オペラ マクベス (演)	関根 勝	平 22 10	Theatre Project Si 第 6 弾。佐藤融、 土田聡子ほか ⁴² 。
58	狂言&オペラ 恋の良薬 (演)	関根 勝	平 22 2	Project Moliere 第 1 弾。「いやいやな がら医者にされ」 より。善竹忠重、 中西麻貴ほか ⁴³ 。
59	狂言&オペラ ひなどり花嫁 (演)	関根 勝	平 22 7	Project Moliere 第 2 弾。「女房学校」 より。善竹忠重、 北澤幸ほか ⁴⁴ 。

Theatre Project Si は、57 番「マクベス」の後にも新作現代能「骨の夢」平 24 (2012.10)⁴⁵、新作音楽劇「Act of Betrayal 裏切り行為」平 26 (2014.3)⁴⁶と上演したが、

³⁰ 関根勝『狂言とコンメディア・デッラルテ』能楽書林、2008、p138 より。

³¹ 同、pp.138-139 より。

³² 同、p.140 より。

³³ 同、p.140 及び p.185 より。

³⁴ 同、p.157 及び p.211 より。

³⁵ 同、pp.232-233 より。

³⁶ 同、pp.251-253 より。

³⁷ 『能楽タイムズ』675 号 (2008.6) より。

³⁸ 同 679 号 (2008.10) より。

³⁹ 同 687 号 (2009.6) より。

⁴⁰ 同 691 号 (2009.10) より。

⁴¹ 同 698 号 (2010.5) より。

⁴² 同 703 号 (2010.10) より。

⁴³ 同 695 号 (2010.2) より。

⁴⁴ 同 700 号 (2010.7) より。

⁴⁵ 同 727 号 (2012.10) より。

⁴⁶ 同 743 号 (2014.2) より。

それぞれ「現代能」「音楽劇」とあり、狂言ではないと判断した。

その他、大蔵流狂言師の松本薫 (1951 (昭 26) -) 作「はだかの殿様」が、平成 24 年 (2012) 8 月に上演されている⁴⁷。

(松本薫・作)

60	はだかの殿様 (演)	松本 薫	平 24 8	アンデルセン「裸の王様」より。 茂山家公演 ⁴⁸ 。
----	---------------	---------	-----------	--

茂山家の翻案狂言を調べたところ、他に小宮正安 (1969 (昭 44) -) 脚本の「狂言風オペラ」3 作が上演されていた⁴⁹。筆者は観劇していないが、茂山あきら・茂山童司・童司カンパニーのホームページ⁵⁰に、「モーツァルトのオペラ作品を狂言風にアレンジした」とあり、狂言的作品と考えた。

(小宮正安・作)

61	狂言風オペラ ドン・ジョヴァンニ (演)	小宮 正安	平 14	モーツァルトのオペラより ⁵¹ 。
62	狂言風オペラ フィガロの結婚 (演)	小宮 正安	平 18	モーツァルトのオペラより ⁵² 。
63	狂言風オペラ 魔笛 (演)	小宮 正安	平 21 10	モーツァルトのオペラより ⁵³ 。

⁴⁷ インターネット上、日生劇場「こどものためのおもしろ狂言」(2012.8.4-8.5) 公演案内 URL: <http://www.nissaytheatre.or.jp/kids/news/2012/08/news-520.html> (2014.5.24 訪問) より。『能楽タイムズ』725 号 (2012.8) に公演案内あり。

⁴⁸ 同上。

⁴⁹ 茂山千五郎家ブログの公演スケジュールのページ URL: <http://www.soja.gr.jp/schedule/item.php?id=3455> (2014.5.25 訪問) より。

⁵⁰ URL: <http://dojicompany.jp/and/and1.html> (2002.9.10 訪問) より。

⁵¹ WEB ぶらあぼホームページ (2014.5.24 訪問) URL: <http://ebravo.jp/archives/9037> 「小宮正安 (脚本) 狂言風オペラ《ドン・ジョヴァンニ》」(2014.4.9) 記事より。

⁵² 日本独文学会ホームページの小宮正安の記事「狂言オペラに会う」(2014.5.25 訪問) URL: <http://www.jgg.jp/modules/kolumne/details.php?bid=62> より。

⁵³ 同上。また、『能楽タイムズ』691 号 (2009.10) に公演案内あり。

茂山あきら・童司は、あきらが 1981 年にジョナ・サルズと共に立ち上げた能法劇団 (西洋演劇と能楽の技術を融合した実験的な劇を試演) での活動が知られている。能法劇団は調査途上であるが、狂言的上演と判断できたものを下記に記す。

(能法劇団・上演)

64	芝居 I (演)		昭 57 5	ベケットより。 狂言形式による上演 ⁵⁴ 茂山あきら、丸石やすし。
65	言葉なき行為 (演)		昭 57 5	ベケットより。 狂言風パントマイム ⁵⁵ 。 茂山あきら。

ここで、64 番「芝居 I」と 65 番「言葉なき行為」は、先の 38 番ダン・ケニー狂言プレイヤーズとの合同公演であった。

また、森崎一博の創作によるアントン・チェーホフ由来の狂言⁵⁶も演じられた。第一弾はチェーホフ「結婚申込」の翻案、第二弾は「熊」の翻案が上演された。出演は茂山正邦ほか。

(森崎一博・作)

66	ぶろぼおず (演)	森崎 一博	平 22 8	アントン・チェーホフ「結婚申込」より ⁵⁷ 。
67	熊 (演)	森崎 一博	平 23 8	アントン・チェーホフ「熊」より ⁵⁸ 。

それから、『能楽タイムズ』紙を調べていて、柳沢新治作のイソップ物語による翻案「ある日の三英傑」を見つけた⁵⁹。

⁵⁴ 『能楽タイムズ』362 号 (1982.5) より。

⁵⁵ 同上。

⁵⁶ 森崎事務所ホームページ (2014.5.26 訪問) URL: <http://www.morisk.com/kyogen/dash08/index.html> 及び <http://www.morisk.com/kyogen/dash09index.html> より。

⁵⁷ 同 701 号 (2010.8) に公演案内あり。

⁵⁸ 同 713 号 (2011.8) に公演案内、715 号 (2011.10) に芸評あり。

⁵⁹ 同 714 号 (2011.9) より。「劇中劇としてキリシタンバテレンから教えられたイソップ物語から題材を得た

(柳沢新治・作)

68	ある日の三英傑(演)	柳沢新治	平 23 9	イソップ物語より ⁶⁰ 。
----	------------	------	-----------	--------------------------

また、本年2月の公演案内から、同じくイソップ寓話を題材としたと思われる翻案を見つけた。野村万蔵、南原清隆らによる現代狂言第8弾「女王アリとキリギリスとカミキリムシ」である⁶¹。

(南原清隆・作)

69	女王アリとキリギリスとカミキリムシ(演)	南原清隆	平 26 2	イソップ物語より ⁶² 。
----	----------------------	------	-----------	--------------------------

その他、上演年月は不明だが、大学講師のJ. M. キューゼルによる翻案狂言の記事を見つけた。

(J. M. キューゼル・作)

70	オミアイ(演)	J. M. キューゼル	不明 (1989-2002 のどこか)	ボッカチオ「オミアヨ」より ⁶³ 。
----	---------	-------------	---------------------------	-------------------------------

以上、一部推測を含むが、今回調査に基づき70作の翻案狂言を抽出できた。

3. 考察

前節において、明治初めから現在までの西欧文学由来の翻案狂言の一覧のリストを調べ、これまで計70作に及ぶ翻案狂言が創作され上演されてきたことが分かった。翻案狂言の立ち上げと発展の過程でどんな動向があり、何の影響が大きかったか。本節では翻案狂言の草創期とその後の発展について、明治期、戦後復興期、現代といった節目から節目の各時期で、大きな影響を与えたと思われる要因を考察

新作を、家康・秀吉・利家が演ずる」とある。

⁶⁰ 同上。

⁶¹ 同743号(2014.2)に公演案内あり。現代狂言のホームページ(2014.5.27訪問)URL: <http://gendaikyogen.jp/>より、作・台本: 南原清隆、演出: 野村万蔵を確認。

⁶² 同上。

⁶³ 『上方芸能 No.135』2002.2「普遍的な笑いをテーマに」(p.21)より。上演年は不明だが、キューゼルが英語による狂言に取り組み始めた1989年9月以降、雑誌出版年である2002年2月の間になる。

したい。

3.1 明治・大正期

一 巖谷小波による翻案狂言の創始

まず明治・大正期について、先の結果から、昭和27年(1952)「濯ぎ川」初演の前に、記録に残った上演作品は、明治39年(1906)「衣大名」しかない。創作台本の発表のみの作品を含めても、確認できたのは、明治期に5つ、大正期に1つのみであった。あとはすべて昭和の戦後以降の作品である。この背景には、変革を好まず伝統を頑なに守る、当時の狂言界の姿勢があったことが考えられる⁶⁴。明治になって俸禄を失った能役者や狂言師は生活が困窮する者も多く、そこに日清戦争、日露戦争、世界大戦と戦争が続き、心身ともに疲弊して、喜劇的な狂言、異国の文学翻案などとんでもない、受け容れ難い、という空気もあったかもしれない。

誰もやらない、前例もない中で、最初の一石を投じるのは難しい。それゆえ最初に翻案狂言を発表し、その後も複数作を発表した巖谷小波の業績が際立つ。

小波の狂言界への貢献は、翻案狂言の創作だけではなかった。西欧文学に限らない新作狂言でみても、当時の誰よりも多く創作・発表していた⁶⁵。

また小波は、子供向けに口調を優しくしたり、幕場を設けて歌舞伎狂言芝居のような長編作にしたり、狂言の伝統様式を変革する提案もした⁶⁶。

⁶⁴ 今でこそ狂言と諸芸能のコラボレーション作品などが上演されるが、戦前、戦中は、翻案作品は言うまでもなく一般に新作を創作上演することが憚られたと思われる。三宅藤九郎(九世、1901-90、明34-平2)は、「著者自序」『藤九郎新作狂言集』能楽書林、1950で、「新しい狂言や小舞の必要を感じて作りはじめたころは、新作の上演が他にほとんど無かったので、一部に批難の声も随分耳にした」と書いている。藤九郎が最初の新作を発表したのは、同書の「新作狂言発表順一覧表」によると大正13年(1924)2月であるが、この状況は明治期や大正初期にも当てはまる。

⁶⁵ 「新作狂言一覧」『狂言辞典(資料編)』によると、明治期に創作発表された新作狂言97作品中実に36作品で突出しており、新作狂言の発表は大正末期まで続いた。

⁶⁶ 「馬盗人」『中学世界』第9巻第1号(明39.1)の冒頭で、「尤も従来の狂言には、かう云ふ続物は無い。

しかし何よりお伽噺の発表や口演の全国行脚⁶⁷により当時の大人気作家であったから、小波が書いたものというだけで、読者に多大な興味を抱かせた。翻案狂言は出版物の付録などに再録され、多くの読者がそれを読んだと思われる。例えば「魔法弟子」は『日本昔噺』第12巻、博文館、1896（明29）の附録に再録された⁶⁸。ベストセラー作家の手になること。この影響は計り知れない。翻案狂言の草創期において、巖谷小波は誰よりも顕著な貢献をしたといえるのではなかろうか。

なお、讀賣新聞への三作が書かれたのが、ちょうど小波が京都日出新聞（きょうとひのでしんぶん）に転職し記者として赴任する直前だった⁶⁹というのは興味深い。何か特別なきっかけがあって投稿したと考えれば、転職前の心の昂ぶりはひとつの投稿動機だったのか。

3.2 明治・大正期

一翻案狂言「衣大名」上演（明39.2.17）

次に、明治期初めての、且つ唯一の翻案狂言上演である「衣大名」上演について考察する。これは明

が、行つて出来ない事もあるまいと思ふ。／言語も多少注意して、強ち古代の狂言語は用ひない。それでも之を演ずる場合、尚解難い憂があれば、当世の用語に改めてもよからう。只口調さへ変らぬならば。／服装とても、強いて狂言風にする必要はあるまい。」と提案されている。同様の工夫は、既に「新年狂言・春駒」（明27.1）で提案されていた。

⁶⁷ 小波の口演行脚については、松山鮎子「口演童話の学校教育への普及過程—社会活動における教師の学びに着目して—」『早稲田大学大学院教育学研究科紀要別冊18号1』（2010.9）を参照した。

⁶⁸ 巖谷小波（著）上田信道（校訂）『日本昔噺』（東洋文庫692）（平凡社、2001）（『日本昔噺』第12巻（博文館、明29・1896）の復刻・校訂版）より。この「狂言・魔法弟子」の冒頭では、新聞投稿版にはなかった、「これは独逸のゲーテと云ふ人が、長篇の詩に作ったのを、其の意のみを訳して、此処には狂言体に綴つたのです。坊ちやん方のお眠気さまし、試しに演つてご覧じろ。中々面白うございます。」との前文を付け加え、子供たちに演技することを呼び掛けた。

⁶⁹ 昭和女子大学近代文学研究室編『近代文学研究叢書35』（1972）p.21より。明治25年の9月から10月初めに投稿し、同年12月に京都に赴任した。

治39年（1906）2月17日、文藝協会発会式の余興として上演されたものの一つであり、狂言師高島彌五郎らによって試演され、好評を得た⁷⁰。

しかし、前項でみたように、当時は翻案狂言を上演しづらい環境があったはずである。この時だけ上演できたのは何か理由があるのだろうか。最初にそんな疑問を持った。文藝協会発会式の余興舞台という特別な上演機会が生じたが、それだけですぐ新作の台本が提供され演者が決まり上演に至れるものだろうか。

上演に至ったのは、偶々杉谷代水が翻案台本を作っていて、さらに偶々それを上演しようという高島彌五郎ら狂言師のグループが見つかって、それらの偶然が重なって初めてなせた業ではないか。そうであれば幾つもの偶然が重なる必要があり、その後こうした上演がなかったのも当然である。

代水が翻案狂言を創作した下地には、代水が才気あふれる人であったことに加え、小波の取り組みにより翻案狂言が人々に認知されつつあったことも考えられる。代水は、翻案狂言に興味を持ってから、恐らくはずっと構想を練っていて、この機会に新作を書き上げたのではなかろうか。

新作狂言が書ける代水は異例であるが、このときは狂言師のほうがより異例であった。高島彌五郎（1830-1912、文政13-明45）は当時喜寿の高齢で、高齢をおしての主演であった。さらには、この上演直前に破門騒動を起こしていた⁷¹。

「衣大名」上演の直前のことに驚く一方で、このように異例だったから、異例な上演がなされたかと

⁷⁰ 『能楽』第4巻第3号（1906.3）p.14、新作狂言「衣大名」台本の前に、下記劇評が書かれている。

左の一篇は早稲田大学講師杉谷代水氏のハンス、アンデルセンの寓意譚に基きて新作せられし狂言にて去る二月十七日芝公園内紅葉館にて催せし文藝協会発会の節高島彌五郎氏以下白水会の人々其の形を附して試演せしに作柄といひ演芸といひ従来熟せしものに優りし良き出来にて満場の大喝采を博したり、（以下略）

⁷¹ 『能楽』第4巻第2号（1906.2）p.62に、「狂言界の一紛擾」と題して、高島彌五郎が1月に秘曲「金岡」を無断で演じて和泉流家元から破門され、新たに白水会を起こしたことが記されている。

思うに至った。彌五郎は破門され白水会を設立してすぐ、短期間で本作の試演に取り組んだのではない。翻案狂言の上演という異例の出来事は、狂言師の破門と新会設立という異例な状況下、周囲が白水会面々の新たな門出を応援する試みとして、あるいは会員が自分たちの門出を成功させようという意気込みで、例外的に企画され実行されたと考えられる。

破門されても支援者はいた。小林責は、「ときの観世流家元・清廉が白水会の後盾になった」と記している⁷²。急な企画だったことを示すものには、雑誌に載った発会式の余興案内に「衣大名」の曲名が載っていなかった⁷³ことが挙げられる。

ともあれ、実際に試演が為され好評を博したことで、翻案狂言は創作から上演へと貴重な一步を踏み出し、新しいステージに上った。前例の成功は、次に同様の上演が企画されるとき心理的抵抗を減じ、勇気を与え、その上演を促す力となる。残念ながら昭和 27 年に「濯ぎ川」が上演されるまで次の機会はなかったが、平成の現在も、今後においても、このときの成功が翻案狂言上演の礎になったと言えるのではない。

3.3 昭和戦後期、飯沢匡による翻案狂言創作

第二次大戦後、翻案狂言をいち早く発表し上演に漕ぎつけたのは、飯沢匡の新作「濯ぎ川」昭和 27 年（1952）2 月であった。飯沢はその後も「箒」、「唾の一声（おしのひとこえ）」、「伊曾保鼠」、「裸大名」、「峯入り行者」、「密か鬼」昭和 53 年（1978）と次々に翻案狂言を発表した。

昭和 20 年代から 30 年代は、片山博通の「二人女房」（昭 27）は初演のみで後が続かず、三宅藤九郎（九世）「ぢゃぢゃ馬馴らし」（昭 27 創作）も昭和 51 年（1976）6 月まで上演がなかった。この間、ほぼ独り飯沢匡のみが翻案狂言を創作し、奇しくも時を同じくして起こった狂言ブームと相まって、狂言師たちが各作品を上演した。

但し海外種の翻案にこだわらなければ、この時期に三宅藤九郎（九世）も積極的な新作狂言の創作上

演をしていた⁷⁴。

全体として新作の創作上演の件数は大きく増えた。その理由には、敗戦により自由を尊ぶ欧米の価値観が入ってきて、新作を自由に創作発表しやすくなったことが考えられる。また、経済成長が人々に笑う余裕を与え、新しい狂言を受け容れる余裕を生じさせたことが考えられる。

しかし、戦後しばらくは、西欧文学に通じ狂言を理解し双方を融合する翻案狂言を書ける人材が育つには、まだ時間が必要だったのだろう。飯沢匡は、その意味で時間を飛び越えた天才であり、この時期にひとりだけ西欧文学の翻案創作を成し遂げた特別な存在であった。

飯沢匡もまた巖谷小波のように国民的ベストセラー作家だったから、彼の翻案狂言はこの時期の人々にどれだけ強い影響を残したことだろうか。

戦時中に一旦途絶えかけた翻案狂言の分野で、創作のタネを撒き、芽を出させ、長年に渡って途絶えさせずに育て続けたことは、飯沢の特筆すべき功績といえる。突出した功績であった。

なお、飯沢の作品はいずれも海外文化・文学を取り込み、自ら狂言の国際化⁷⁵を唱えるものだったが、一方で飯沢は狂言の表現や約束ごとを守るよう努めていた⁷⁶。「濯ぎ川」は手を加えられ何度も上演され、今や大蔵流の定番曲になって、最近でも繰り返し上演されている⁷⁷。

3.4 平成初期～現代、シェイクスピア翻案ブーム

平成 3 年（1991）になると、シェイクスピア翻案

⁷⁴ 「新作狂言発表順一覧表」『藤九郎新作狂言集』より。

⁷⁵ 『飯沢匡新狂言集』「あとがき」p.141。「私は外国種を狂言化しようと考えた」。

⁷⁶ 同「あとがき」p.141。「私は、狂言という長年にわたって私たちの祖先が、洗練に洗練を重ねて完成したこの演劇の形式を破壊することを好まなかった。（中略）出来るだけの狂言の表現や約束ごとを守ろうと考えた」。

⁷⁷ 同「あとがき」p.138。「今この狂言は、大蔵流の「書き上げ」（公式レパートリー）の中に入ってしまった」。また、『能楽タイムズ』701 号（2010.8）と 713 号（2011.8）の上演案内で、どちらにも「濯ぎ川」が見られる。

⁷² 小林責『狂言史研究』わんや書店、1974、p.112 より。

⁷³ 『能楽』、『早稲田文学』、各明治 39 年 2 月号より。

が俄かに注目され上演される。英国ジャパンフェスティバル（1991）に向けて和泉元秀や野村万作らがシェイクスピア翻案狂言を上演し、ダン・ケニーらは国内で英語翻案狂言を上演した。上演の連鎖が評判を呼び、和泉元秀や野村万作らは国内外で繰り返し上演した。21世紀になって関根勝が加わると、積極的な活動を展開した。和泉宗家では元秀の死去（1995）後に新作創作の勢いは減じたが、「じゃじゃ馬馴らし」は最近でも時々再演される⁷⁸。高橋康也（2002 死去）の「まちがいの狂言」なども同様に再演されている⁷⁹。

飯沢匡以後の翻案狂言上演を眺めるとき、シェイクスピア翻案の狂言作品の上演は質量ともに圧倒的である。いわゆるシェイクスピアブームが、翻案狂言の創作上演においても起こったといえるのではなかろうか。

さて、平成期に入り、従来の狂言様式から離れた新しい試みがどんどんなされるようになってきた。翻案作者や演者の姿勢が、狂言の伝統を出来る限り守ろうとするのか、逆に変化革新により新しい活力を得ようとしているのか、姿勢の違いが顕在化した。

狂言が伝統芸能である以上、一般に狂言師の多くは「狂言の伝統を守ること」を重要と考えるだろう。先にみたように飯沢匡は伝統を守ることが大切に考えた。三宅藤九郎（九世）も、片山博通も、和泉元秀も、ダン・ケニーも、彼らは皆、伝統を守って狂言らしい狂言を演じようとした⁸⁰。

一方で、高橋康也と関根勝は、狂言が変わっていくことを受け容れた。高橋康也は、

狂言の全レパートリーを探しても、フォールスタフほどスケールの大きい登場人物はいません。その巨大なエネルギーの片鱗なりと狂言に取り込むことができれば、そのとき変容しているのはシ

ェイクスピアである以上に狂言のほうでしょう⁸¹。

と述べて、狂言の変容を肯定した。関根勝は、翻案狂言は自由に演出できること、西洋の喜劇との融合でもっと可能性が広がることを述べた。

翻案狂言や新作の狂言は、江戸時代に作られた型付（演技要項）からは完全に自由である。古典の狂言では演出家は存在しない。しかし翻案狂言や新作狂言であるなら、演出家が台本を基にして、どのような舞台にでも作り上げられる。（中略）…演技の簡素化と、簡素化された誇張を追求すれば、古典狂言の精神に近づける。（中略）その正反対の誇張した演技を混ぜれば、相乗効果が期待できる⁸²。

西洋の喜劇との融合については、

…鎖国した徳川の時代に洗練され、完成された古典狂言に西洋の喜劇との融合を受け入れることはまず無かった。始めて、その禁を破ったのが第二次世界大戦後の武智鉄二と茂山千作（現）の『濯ぎ川』だけである。しかし、これは完全に狂言の型の中にはめ込んだものである。高橋康也さんがやった翻訳狂言『ややこしや、ややこしや』や、私がやった、また、やろうとしている翻案狂言・新作狂言は古典狂言から出発しながらも、狂言の可能性を押し広げるべく、狂言の枠を大きく超え、古典狂言の対極を作ろうとするものである⁸³。

と述べた。筆者は本稿で狂言変革の先駆けが巖谷小波にあったのではないかと提起したが、その是非を置けば、高橋康也と関根勝の試みは、狂言の枠を超えて可能性を広げる最初の試みであったといえる。

では、狂言師の側はどうか。高橋の「法螺侍」や「まちがいの狂言」を演じた野村萬斎は、あるイン

⁷⁸ 平 23.8.31「兄弟会」公演。『能楽タイムズ』713号に公演案内、715号に劇評が載った。

⁷⁹ 平 22.12.23-26 公演。同 705号に公演案内。

⁸⁰ 拙稿「シェイクスピア劇と狂言の出会い」（2012.11）、「シェイクスピア劇と英語狂言」（2013.7）、ともに『日本大学大学院総合社会情報研究科紀要』（各 No.13、No.14 所収）でその点を論じている。

⁸¹ 高橋康也「フォールスタフ変容：シェイクスピアを狂言化する」高田康成・河合祥一郎・野田学編『シェイクスピアへの架け橋』東京大学出版会、1998より。

⁸² 『狂言とコンメディア・デッラルテ』、p.180より。

⁸³ 『狂言とコンメディア・デッラルテ』、p.181より。

タビューで、

ただ、僕らにしてもかたくなに古典のやり方を守っているのではなく、やはり時代と向き合うようにしているから伝統になり得るし、現代に生き残っているわけです。ですからそういう意識の中で、シェイクスピアをヒントに、古典を現代に生かすということはどういうことなのかというひとつの発想を知りたかったということがあります⁸⁴。

と、伝統に縛られ過ぎずに狂言の新しい可能性を模索したい気持ちを語った。

本年三月に、関根勝が早稲田大学を退官した。シェイクスピア翻案狂言作者が、また一人表舞台から去るのであろうか。ひと頃の勢いがなくなってきたシェイクスピア翻案狂言であるが、シェイクスピアの生誕何百年、没後何百年といった節目は研究が盛んになり、記念上演がなされることがある。今後の再興に期待する。

3.5 21世紀～、茂山家の台頭

近年、21世紀になって、茂山家一門による翻案狂言への取り組みが目立つ。シェイクスピアブームを受け流し、アンデルセン、イソップ、チェーホフなど、様々な作家の翻案を上演している。翻案に限らない場合も、現在、定番以外の新曲を一番積極的に上演しているのは茂山一門に思える。『能楽タイムズ』でここ数年の上演予定を眺めると、新作狂言あるいは狂言風の新作上演(西欧文学翻案に限らない)に、茂山家の上演が多く見られる。

独自に「お豆腐狂言」という庶民寄りの理念を持つ茂山家だが、本来どこよりもチャレンジ精神が旺盛なのかもしれない。戦後、新作上演など新しい試みを、誰よりも早く積極的に取り組んだのは、茂山七五三と千之丞であった。日生大歌舞伎(昭39.1)出演時に能楽協会と退会騒動が起きたが、退会も辞さずの覚悟で押し通した⁸⁵。チャレンジ精神は引き

継がれ、たとえば、茂山あきら、童司は、日英二ヶ国語が混在するバイリンガル狂言に取り組み、新たな表現分野を切り拓いている。

前節の翻案狂言の調査結果を見ると、平成の当初はシェイクスピア翻案が牽引していたが、最近では茂山家の翻案が牽引している。今後も期待したい。

4.おわりに

ここまで、明治時代から最近までの西欧文学由来の翻案狂言について、まず該当作品を抽出し、次に時代ごとに特徴を考察した。

最近の特徴として、別芸能とのコラボレーションが増えた。その結果、舞台を観た時に、「これが狂言か」と思える作品も出てきた。上演舞台が狂言か否か分からなくなってくるなら、もうそれは一面では狂言という芸能の成長であっても、伝統芸能という視点からは、自分で自分の特徴を切り捨てて自らの首を絞める行為にほかならないのではないか。

外国文学の翻案狂言であっても、いかにも狂言らしい狂言に仕上げられることは、「濯ぎ川」の定番化で証明された。安心して狂言と思って見られる翻案狂言が、今後もっと増えることを期待している。

今回調査では、能法劇団の過去の上演や現代狂言の過去の上演など、調査不足なところがあった。また、狂言とそうでない上演を区別する基準など、考察途上の点もあった。さらに調査研究を続けていくことを、今後の課題としたい

5.主な参考文献(本文脚注記載のものを除く)

- ・日本の英学 100 年編集部(編)『日本の英学 100 年 明治編』研究社、1968.
- ・西野春雄・羽田昶(編)『新訂増補 能・狂言事典』平凡社、1987.

(Received: May 31, 2014)

(Issued in internet Edition: July 1, 2014)

⁸⁴ 「インタビュー 狂言とシェイクスピア・野村萬斎」月刊『言語』大修館書店、2001.10 より。

⁸⁵ 茂山千作、茂山千之丞、宮辻政夫(編)『狂言兄弟』毎日新聞社、2013、pp.187-94 より。